

和地ひとみレポート No.212

東大和市議会平成28年第3回定例会 一般質問“東大和市の教育について” 学校教育は“東大和市スタンダード”の充実を



■第3回市議会定例会 一般質問

…9月6日から開会されている平成28年第3回市議会定例会で、私は以下のテーマについて一般質問で取り上げました。

■教育について

① 学校教育について

ア:現状、認識している課題は何か。また、その具体的な対応策はあるか。

イ:学校教育における近年の新たな取り組みについて。

⇒市全体ではどのような取り組みを行ったのか。

⇒その取り組みの効果は。また、改善点などはあるか。

⇒学校ごとの取り組みで特徴的なものは何か。また、その取り組みの中で、全市に普及させる予定のものは。

ウ:学校特色化について。

⇒その目的と効果は。

⇒課題は。

② 社会教育について

ア:市民大学について

⇒今までの講義内容と応募者数、年代別受講者数は。

⇒市民大学と各公民館主催の講座との違いは何か。

⇒市民大学の当初の目的に対する現状と課題は何か。

⇒ほかの部課との連携の現状と課題。

イ:社会教育に関する課題と解決策は。

③ 2020 東京オリンピック・パラリンピックについて

ア:当市において見込まれる教育的効果は何か。

イ:その教育的効果を実現するために、取り組むべきことは何か。また、そのスタート時期など具体的なプランは。

…昨年度より、東大和市は尾崎市長主導のもと、“日本一子育てしやすいまち”を目指して、様々な施策を推し進めており、その取り組みによる良い変化は少しずつ感じられるようになってきました。“子育てしやすいまち”の実現には様々な要素があり、それは待機児童対策など直接的なことだけではないことは言うまでもありません。もちろん現在の東大和市の課題に対し、優先順位はあると思いますが、将来の日本を担う子供たちの育成という点においても、子育てをする市民や、これから住むまちを探している子育て中の方にとっても、東大和市の教育環境については大きな関心事であることは間違いないと思います。また、市内に様々な学習機会があること、その市に住んだから得られる学習や体験の機会というものは、子育て中の人だけではなく、そこに住む者にとって「住んでよかったまち」という実感と満足につながり、その実感が波及するこ

ことで「住みたいまち」、

「住み続けたいまち」

という声が多く聞かれるようになると思います。

そして、その結果、市全体の文化度も向上し、まちづくりの大きな要素となる市民が生き生きと生活し、さらにその方たちが東大和市民であることに誇りや愛着を持ち、まちづくりに参画するという良いスパイラルが生まれることも期待できます。そこで、今回は教育について「学校教育」「社会教育」、そして、本格的にスタートを切った「オリンピック・パラリンピック教育」という3つの点について市の考えや方向性について確認しました。

■学校教育の現状と課題は

…まず、学校教育についての課題と、その具体的な対応策についての答弁は「各学校において、児童・生徒に知・徳・体、バランスのとれた力を育み、生きる力を身につけさせるために日ごろから様々な取り組みに尽力している。その中で、特に意識しなければならない課題は、知の部分の確かな学力の定着だ。毎年行われる国や東京都の調査では、国や東京都の平均正答率を上回る学校も複数校見られるようになったものの、市全体の平均正答率は国や東京都のそれに比べ下回っている状況にある。そこで、昨年度より東京都の学力ステップアップ推進地域指定事業を受け、全校で放課後や休業日等に補習教室を実施したり、教員の指導力を高めたるために、専門の講師から指導を受ける機会を多く設ける等している。さらに、これまで各学校に配置していた少人数学習指導員に加え、担任の教員と協力して授業を行うティームティーチャーを配置するとともに、小学校には落ちついた環境の中で学習ができるよう、担任を補助する学習支援員を配置している。学校教育には、学力の向上のほかにも、児童・生徒の体力を向上させることや、自己肯定感を高めることなど課題は数多くある。今後も一つ一つの課題を丁寧に分析しながら、解決が図れるよう努めていく。」というものでした。

…確かに、長年課題とされてきた「学力向上」については、その取り組みの成果は少しずつ見えてきているものの、市全体としてはまだ、大きな手ごたえを得るところまでは進んでいない状況だと感じました。

■学校の特色化と市全体の取り組みは

…近年、市の教育委員会からは「学校の特色化」という言葉をよく耳にします。実際に、平成25年度から昨年度まで、市は「学校特色化補助金」を実施。

(裏面に続く)

地域や子どもの実態に応じ、創意・工夫を生かした特色ある教育活動を積極的に展開する学校に対して補助金を交付してきました。その結果、各学校が新たに実施した取り組みで、良い効果が出ていることを、様々なところで耳にしていますが、「ある学校で、良い結果が出て7いるのなら、全市の取り組みとしていけば良いのではないか」と感じることもあります。

…そこで、各学校の特徴的な取り組みで良い効果が得られている取り組みを全市に普及させる予定があるかどうかについて確認したところ、「各学校では校長のリーダーシップのもと、様々な工夫をした取り組みが実践されている。第三小学校では、期間を定めて期末テストを実施し、児童に家庭で集中して学習する習慣を身につけさせる工夫を行っている。第九小学校では挨拶運動を地域とともに実践していくことを目指し「あいさつ通り」として位置づけした取り組みを始めている。また、第五中学校では入学前の新生を春休み中に迎え入れ、中学校にいち早く慣れさせる試みを今年度実施した。これらの取り組みの中、成果の上がっている取り組みは、各学校の学校だよりやホームページに掲載されるほか、校長会等でも紹介しており、他校の参考となっている。」との答弁でした。

…例えば、この答弁の中で例示された第五中学校の取り組みの「新生を春休み中に迎え入れて、中学校に早く慣れさせる」というものは、どこの中学校でも問題になっている「中一ギャップ」と呼ばれる問題の解決策につながることを期待できます。同じ『東大和市立』の中学校なのに、春休みから実施する学校と、しない学校があることには、ある種の違和感を感じます。

■通う学校よっての違いは

…「学校の特色化」とともに、近年、良く耳にするのが「校長の学校経営方針に基づき…」というもの。文科省でも、これからの教育の在り方について「チーム学校」という考え方を提唱し、「チーム学校」を機能させるため、今まで以上に学校マネジメント力が重要視され、管理職のリーダーシップ、マネジメント能力の向上＝『校長がリーダーシップを発揮し、学校の教育力を向上させていくこと』が求められています。

よって、「校長の学校経営方針に基づき」学校運営、教育が進められることについて異論はありませんが、一方で、学校長は数年で異動することも事実です。学校は、市の教育目標を土台にした「学校教育目標」のもと、教育活動を実施していますが、様々な学習活動は、その目標を逸脱しない限り、校長の経営方針で変更できるということも事実です。

…例えば『宿泊を伴う学習・行事＝移動教室』というものがありますが、小学5年生で実施している小学校

は10校中4校、中学2年生で実施している中学校は5校中2校。この宿泊を伴う学習・行事に市は児童（小学5年生）1人当たり2,200円、生徒（中学生1、2年生）には1人当たり4,200円の宿泊補助金を出しています。小学5年生と中学2年生の移動教室を実施していない学校の子供達は、この補助金を得る機会と学習体験を得る機会がないこととなります。これについては、保護者からも「なぜ？」という声が多く出ています。東大和市は『学校選択制』を実施していないにも関わらず（基本的には住んでいる学区で通う学校が自動的に決まるのに）この「市が補助金を出したうえで実施されている学習活動が、通う学校によって違う」ことについては、以前の決算特別委員会などでも私は取り上げましたが「学校長の経営方針によって実施する、しないが決められている。」との答弁にとどまっています。

…実施することで得られる学習効果を認めているのならば、市内全校で実施するべきだと私は考えます。今回の私の質問に対する答弁は「例えば5年生で移動教室を実施すると、6年生で行く移動教室の中で集団生活というものを教える必要がなく、実際の学習に集中できるという効果があると思っているが、学校によって様々な事情、他の行事等との兼ね合いもあり、5年生の移動教室を全校で実施していくかどうかというのは、今後、小学校の校長会とも連携して全校で実施するかどうかを検討していきたい。」というものでした。

■東大和市スタンダードという考え方は

…私は、小学5年生と中学2年生の移動教室は、何が何でも全校で実施すべきだということを主張しているわけではありません。ただ、この具体的な事実から「学校ごとで得られる基本的な学習体験」が変わってきてしまうということが他にもあるのではないかと保護者が感じることは市の教育方針への信頼感が低くなることへの心配があるということです。

…教育は、学校だけではなく、校長先生、担任の先生といった「人」による部分が大きく影響することは否めません。しかし、一方で昨今、教育の評価（住む場所などを選ぶ際など）については、全国的にも有名な「秋田県の教育が充実している」といったことや、東京都でも「〇〇区の教育は充実している」といった『自治体単位の教育』で評価（≒評判）されるようになっています。東大和市内、どこの学区に住んでいても、一定の教育や学習体験を得られるという「東大和市スタンダード」という考えを充実させることが、保護者の市の学校教育施策への信頼、そして評判につながると考えます。その『土台』があつたうえでの『学校特色化』ではないかと提言させていただきました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」
【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/「人を活かす」経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102